

中長期目標 (学校ビジョン)		保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次 代を担う若者を育てる		今年度の 重点目標	①鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける ②望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する ③健康に留意し、学力向上と部活動に励む ④ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	年度当初		評価結果 (9)月	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策		
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。	・86%の生徒が、鳥商に入学して良かったと思っている。 ・98%の生徒が社会・学校のルールを守るよう心がけており、91%の生徒が自ら挨拶、正しい着こなしを実践している。 ・今春卒業生の93%が、鳥商は地域社会から信頼されていると考えている。	・90%の生徒が、鳥商に入学して良かったと思っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶、制服の正しい着こなしが実践されており、地域社会から高い評価を得ている。 ・目的意識を持って、遅刻、欠席のない規律正しい生活を送っており、遅刻生徒が80%以上である。(遅刻1人当たり 0.4回以下)。 ・学校行事、全校集会等で規律ある行動を取ることができ、校歌を大きな声で歌うことができる。 ・学校行事、生徒会活動、部活動が活発に行われており、生徒一人ひとりの集団活動に対する参加意識と貢献意識が高い。 ・すべての生徒が、安心、安全な学校生活を送っていると感じている。	・年間を通じて、職員、生徒会、部活動が連携した毎朝の挨拶運動を実施する。 ・授業開始・終了時の挨拶を大切にし、規律のある授業展開を図る。 ・第2回鳥取県商業教育フォーラムによって全国レベルの商業高校(宇都宮商業、八幡商業、熊本商業)に学び、商業高校生としての研鑽を図る。 ・商高体験、強歩大会等の学校行事をとおして集団活動への貢献意欲を喚起する。 ・遅刻生徒に対して、生活態度の見直しを促す継続的指導を行う。 ・生徒にとって見守られ感と安心感を感じることのできる学校生活の構築に努める。	・入学直後の1年生対象にビジネス基礎研修を実施し、鳥商生であることに自覚と誇りを持つことの意義、鳥商教育の目的を学んだ。 ・第2回鳥取県商業教育フォーラム(7月)によって、全国トップレベルの商業高校(宇都宮商高、八幡商高、熊本商高)のさまざまな実践に学び、商業教育の意義を再確認した。 ・生徒会執行部、各部生徒(全部活動のローテーション)が毎朝の挨拶運動を実施し、制服の正しい着こなし、気持ちの良い挨拶を指導している。 ・遅刻生徒は前期末で1人当たり0.26回(1年0.14回、2年0.21回、3年0.41回)である。 ・5分前行動は概ね達成されている。大きな声で校歌を歌う生徒が少しずつ増えてきた。	B	・1年ビジネス体験実習(10月、57事業所)を通して、さらに本校で学ぶ意義・目的、鳥商生としての自覚と誇りに対する意識を高める。 ・日常生活での挨拶やマナー、授業秩序等について継続して指導する。 ・無遅刻の意義を考えさせる等、各学年で工夫した遅刻指導を行う。 ・鳥商デパート(12月)、1年ビジネス体験実習(10月)、2年研修旅行(10月)、強歩大会(10月)等を通して集団活動に対する参加・貢献意欲を高め、学校生活がより安心、安全なものとなるように生徒一人ひとりの意識を喚起する。		
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった言動ができるとともに、周囲や集団のために貢献する姿勢が身につけている。	・74%の生徒が無遅刻である。(遅刻1人当たり0.56回) ・87%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加している。 ・91%の生徒が、安心、安全な学校生活を送っていると感じている。	・キャリア教育に関する行事が体系的計画的に実施され、多角的な体験的活動が積極的に行われている。 ・生徒たちが、鳥商教育の集大成である鳥商デパートを主体的に企画・運営することによって、「協働、レジリエンス、問題解決」力身につけている。 ・自己表現学習プログラムによって、社会人として必要不可欠とされるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の基礎基本を身につけている。 ・全商検定1級検定の複数資格合格に向けて取り組む姿勢が定着している。(今春卒業生の全商検定1級3種目以上合格者は81名、取得率42%であり、ともに過去最高であった。)	・社会生活、職業生活を視野に入れた進路選択がなされており、様々な体験活動や各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・職業資格の取得に努め、全商1級3種目以上取得者100名以上が達成されている。 ・体系的計画的なキャリア教育によって培われた明確な目的意識に基づいた進路選択を行い、就職内定100%、進学合格率100%が達成されている。 ・進学希望者は、1年次より補習、進学模擬試験等に積極的に取り組んでいる。	・自己表現学習プログラムに基づき、進路指導部、学年、商業科、自己表現学習育成委員会が連携して、社会生活、職業生活に不可欠な自己表現力(聞く力、話す力、読む力、書く力、伝える力)を育成する。 ・第22回鳥商デパートを、地域貢献、勤労観を身につけるキャリア教育の集大成として位置づけ、さらに発展させていく。 ・検定・進学補習を体系的計画的に実施し、商業科目と普通科科目の学びをともに深化させる。 ・卒業生による進路講演会、高大連携(鳥取環境大)等によって、進路意識を高める。 ・夏季休業中に、全学年で進学者対象の勉強合宿・セミナー等を実施する。	・自己表現学習プログラムにより、就職・進学のために不可欠なコミュニケーション能力、表現力等を次第に身につけていることができ、就職内定・進学合格状況は例年以上に順調である。 ・卒業生5名(大学、専門学校、公務員、民間企業)による進路講演会(5月)によって、3年生の進路意識を高めることができた。 ・1学期平日補習(3年進学者対象)、検定対策講座を、検定週間、就職・進学模試、補習(全学年、夏季休業中)、公務員セミナー、勉強合宿(1年、夏季休業中)小論文指導等を実施した。 ・3年生の全商検定取得者は、9月末時点で1級3種目以上48名、1級2種目52名である。	B	・1年ビジネス体験実習(10月)、2年研修旅行(10月)、鳥商デパート(12月)等の体験的活動を通して、キャリア意識を高めていく。 ・自己表現学習育成の一環として、SHR(スピーチ月間)、学年集会等のスピーチを継続する。 ・1月全商検定前情報処理週間、簿記検定週間を設定し、補習等を実施することによって学習意欲を高め、合格率を上げる。 ・冬季休業中の補習、3年進学者対象の2学期平日補習を実施し、学力を伸長する。 ・就職内定者を対象とした就職直前セミナー(2月)を行い、良き職人として必要なことがらを学ぶ機会を設ける。	
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通した効果的な体験的活動によって、自立・自律のための実践力や応用力の育成が行われている。	・キャリア教育に関する行事が体系的計画的に実施され、多角的な体験的活動が積極的に行われている。 ・生徒たちが、鳥商教育の集大成である鳥商デパートを主体的に企画・運営することによって、「協働、レジリエンス、問題解決」力身につけている。 ・自己表現学習プログラムによって、社会人として必要不可欠とされるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の基礎基本を身につけている。 ・全商検定1級検定の複数資格合格に向けて取り組む姿勢が定着している。(今春卒業生の全商検定1級3種目以上合格者は81名、取得率42%であり、ともに過去最高であった。)	・社会生活、職業生活を視野に入れた進路選択がなされており、様々な体験活動や各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・職業資格の取得に努め、全商1級3種目以上取得者100名以上が達成されている。 ・体系的計画的なキャリア教育によって培われた明確な目的意識に基づいた進路選択を行い、就職内定100%、進学合格率100%が達成されている。 ・進学希望者は、1年次より補習、進学模擬試験等に積極的に取り組んでいる。	・自己表現学習プログラムに基づき、進路指導部、学年、商業科、自己表現学習育成委員会が連携して、社会生活、職業生活に不可欠な自己表現力(聞く力、話す力、読む力、書く力、伝える力)を育成する。 ・第22回鳥商デパートを、地域貢献、勤労観を身につけるキャリア教育の集大成として位置づけ、さらに発展させていく。 ・検定・進学補習を体系的計画的に実施し、商業科目と普通科科目の学びをともに深化させる。 ・卒業生による進路講演会、高大連携(鳥取環境大)等によって、進路意識を高める。 ・夏季休業中に、全学年で進学者対象の勉強合宿・セミナー等を実施する。	・自己表現学習プログラムにより、就職・進学のために不可欠なコミュニケーション能力、表現力等を次第に身につけていることができ、就職内定・進学合格状況は例年以上に順調である。 ・卒業生5名(大学、専門学校、公務員、民間企業)による進路講演会(5月)によって、3年生の進路意識を高めることができた。 ・1学期平日補習(3年進学者対象)、検定対策講座を、検定週間、就職・進学模試、補習(全学年、夏季休業中)、公務員セミナー、勉強合宿(1年、夏季休業中)小論文指導等を実施した。 ・3年生の全商検定取得者は、9月末時点で1級3種目以上48名、1級2種目52名である。	B	・1年ビジネス体験実習(10月)、2年研修旅行(10月)、鳥商デパート(12月)等の体験的活動を通して、キャリア意識を高めていく。 ・自己表現学習育成の一環として、SHR(スピーチ月間)、学年集会等のスピーチを継続する。 ・1月全商検定前情報処理週間、簿記検定週間を設定し、補習等を実施することによって学習意欲を高め、合格率を上げる。 ・冬季休業中の補習、3年進学者対象の2学期平日補習を実施し、学力を伸長する。 ・就職内定者を対象とした就職直前セミナー(2月)を行い、良き職人として必要なことがらを学ぶ機会を設ける。		
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。	・95%の生徒が欠席、遅刻をしないように日頃から心がけており、実際に73%の生徒が規則正しい生活(就寝、起床、食事など)を送っている。 ・授業における学習意欲・態度は概ね良好であり、81%の生徒が授業に集中できている。 ・1日当たりの自宅学習時間は、調査直前(昨年6月)では175分、調査後(昨年10月)では45分。自宅学習を継続的に行う習慣が身につけていない生徒がいる。 ・部活動への関心は高く、ほとんどの生徒が加入し活発に活動しているが、全員加入には至っていない。(昨年度の部活動加入率は93%) ・昨年度の全国大会出場を果たした部は10(14大会)であり、全部活動20の半数となっている。	・健康や安全に対する意識が高く、食事・睡眠・運動を大切にしながら規則正しい生活を送っている生徒が80%以上となっている。 ・商業科目と普通科科目のバランスを大切に、継続した学習習慣が定着している。自宅学習時間は、定期考査期間以外で1日60分以上となっている。 ・部活動に100%加入し、学習と部活動の両立に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場となっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各部が切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。	・薬物乱用防止、スマホ・SNS等に関する生徒対象の講演会・研修会を実施するとともに、学校だより等をおして健康、安全について保護者への啓発を行う。 ・生徒が主体となった健康教育LHRを実施し、生活リズム確立の大切さについての意識を高める。 ・0限体育等をおして、基礎体力伸長を図る。 ・文科省研究指定事業(ケーススタディ、知識構成型ジソー法)、県外各校との授業実践交流、中高連携等によって授業力の向上を図り、生徒の学ぶ意欲を高める授業改善を進める。 ・計画的に自宅学習に取り組むために、自宅学習時間調査の結果に基づいた面接指導等によって、継続した学習の大切さを自覚させる。 ・人格成長の場としての部活動の意義を自覚させることによって、協同性、社会性、忍耐力等を涵養する。	・放送部、生徒保健会のコラボにより健康教育DVD教材(食と健康)を自主制作し、各クラス保健委員の主導で健康教育LHR(9月)を実施した。 ・日々の健康観察、定期的な保健だよりの発行、タイムリーな健康情報提供等により、健康管理を行っている。 ・授業評価アンケート(7月)によると、「わかりやすい授業である」と答えた生徒は85.1%であり、授業改善が進みつつある。 ・1学期期末考査前1週間(6月)の1日当たり平均自宅学習時間は125分であり、昨年度同時期に比べて減少している。8月以降、就職・進学試験を控えた3年では、放課後に学習している生徒が多くなった。 ・倉敷商高、津山商高、尾道商高との授業実践交流(9月)を実施し、授業改善を図った。 ・5月時点で部活動加入率は100%である。9月末時点で全国大会に8部(9大会、全部活動の4割)が出場しており、出場生徒数は全校の約6分の1である。	B	・保健だより、PTA広報誌等で生活リズム確立について生徒・保護者への啓発を行う。 ・新体力テストの結果を活用し、保健体育の授業、0限体育等によって、体力・健康向上を図る。 ・年間を通じて自宅学習調査を行い、調査結果を各教科の授業改善、生徒面談等に活用する。 ・文科省科学研究指定事業(12月)、授業改革研修(12月)、中学校出前授業等によって、生徒の学ぶ意欲を高める授業力向上を図る。 ・部活動が人格形成の場であることに自覚させ、技術力3割・人間力7割の指導を継続する。		
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	【健康に留意する】 ・基本的な生活習慣の大切さをよく理解し、食事・睡眠・運動に留意した規則正しい生活を送っている。	・95%の生徒が欠席、遅刻をしないように日頃から心がけており、実際に73%の生徒が規則正しい生活(就寝、起床、食事など)を送っている。 ・授業における学習意欲・態度は概ね良好であり、81%の生徒が授業に集中できている。 ・1日当たりの自宅学習時間は、調査直前(昨年6月)では175分、調査後(昨年10月)では45分。自宅学習を継続的にを行う習慣が身につけていない生徒がいる。 ・部活動への関心は高く、ほとんどの生徒が加入し活発に活動しているが、全員加入には至っていない。(昨年度の部活動加入率は93%) ・昨年度の全国大会出場を果たした部は10(14大会)であり、全部活動20の半数となっている。	・健康や安全に対する意識が高く、食事・睡眠・運動を大切にしながら規則正しい生活を送っている生徒が80%以上となっている。 ・商業科目と普通科科目のバランスを大切に、継続した学習習慣が定着している。自宅学習時間は、定期考査期間以外で1日60分以上となっている。 ・部活動に100%加入し、学習と部活動の両立に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場となっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各部が切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。	・薬物乱用防止、スマホ・SNS等に関する生徒対象の講演会・研修会を実施するとともに、学校だより等をおして健康、安全について保護者への啓発を行う。 ・生徒が主体となった健康教育LHRを実施し、生活リズム確立の大切さについての意識を高める。 ・0限体育等をおして、基礎体力伸長を図る。 ・文科省研究指定事業(ケーススタディ、知識構成型ジソー法)、県外各校との授業実践交流、中高連携等によって授業力の向上を図り、生徒の学ぶ意欲を高める授業改善を進める。 ・計画的に自宅学習に取り組むために、自宅学習時間調査の結果に基づいた面接指導等によって、継続した学習の大切さを自覚させる。 ・人格成長の場としての部活動の意義を自覚させることによって、協同性、社会性、忍耐力等を涵養する。	・放送部、生徒保健会のコラボにより健康教育DVD教材(食と健康)を自主制作し、各クラス保健委員の主導で健康教育LHR(9月)を実施した。 ・日々の健康観察、定期的な保健だよりの発行、タイムリーな健康情報提供等により、健康管理を行っている。 ・授業評価アンケート(7月)によると、「わかりやすい授業である」と答えた生徒は85.1%であり、授業改善が進みつつある。 ・1学期期末考査前1週間(6月)の1日当たり平均自宅学習時間は125分であり、昨年度同時期に比べて減少している。8月以降、就職・進学試験を控えた3年では、放課後に学習している生徒が多くなった。 ・倉敷商高、津山商高、尾道商高との授業実践交流(9月)を実施し、授業改善を図った。 ・5月時点で部活動加入率は100%である。9月末時点で全国大会に8部(9大会、全部活動の4割)が出場しており、出場生徒数は全校の約6分の1である。	B	・保健だより、PTA広報誌等で生活リズム確立について生徒・保護者への啓発を行う。 ・新体力テストの結果を活用し、保健体育の授業、0限体育等によって、体力・健康向上を図る。 ・年間を通じて自宅学習調査を行い、調査結果を各教科の授業改善、生徒面談等に活用する。 ・文科省科学研究指定事業(12月)、授業改革研修(12月)、中学校出前授業等によって、生徒の学ぶ意欲を高める授業力向上を図る。 ・部活動が人格形成の場であることに自覚させ、技術力3割・人間力7割の指導を継続する。		
	【学力向上に努める】 ・高い意欲をもって授業に臨み、秩序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、継続的に積み重ねられている。	・95%の生徒が欠席、遅刻をしないように日頃から心がけており、実際に73%の生徒が規則正しい生活(就寝、起床、食事など)を送っている。 ・授業における学習意欲・態度は概ね良好であり、81%の生徒が授業に集中できている。 ・1日当たりの自宅学習時間は、調査直前(昨年6月)では175分、調査後(昨年10月)では45分。自宅学習を継続的にを行う習慣が身につけていない生徒がいる。 ・部活動への関心は高く、ほとんどの生徒が加入し活発に活動しているが、全員加入には至っていない。(昨年度の部活動加入率は93%) ・昨年度の全国大会出場を果たした部は10(14大会)であり、全部活動20の半数となっている。	・健康や安全に対する意識が高く、食事・睡眠・運動を大切にしながら規則正しい生活を送っている生徒が80%以上となっている。 ・商業科目と普通科科目のバランスを大切に、継続した学習習慣が定着している。自宅学習時間は、定期考査期間以外で1日60分以上となっている。 ・部活動に100%加入し、学習と部活動の両立に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場となっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各部が切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。	・薬物乱用防止、スマホ・SNS等に関する生徒対象の講演会・研修会を実施するとともに、学校だより等をおして健康、安全について保護者への啓発を行う。 ・生徒が主体となった健康教育LHRを実施し、生活リズム確立の大切さについての意識を高める。 ・0限体育等をおして、基礎体力伸長を図る。 ・文科省研究指定事業(ケーススタディ、知識構成型ジソー法)、県外各校との授業実践交流、中高連携等によって授業力の向上を図り、生徒の学ぶ意欲を高める授業改善を進める。 ・計画的に自宅学習に取り組むために、自宅学習時間調査の結果に基づいた面接指導等によって、継続した学習の大切さを自覚させる。 ・人格成長の場としての部活動の意義を自覚させることによって、協同性、社会性、忍耐力等を涵養する。	・放送部、生徒保健会のコラボにより健康教育DVD教材(食と健康)を自主制作し、各クラス保健委員の主導で健康教育LHR(9月)を実施した。 ・日々の健康観察、定期的な保健だよりの発行、タイムリーな健康情報提供等により、健康管理を行っている。 ・授業評価アンケート(7月)によると、「わかりやすい授業である」と答えた生徒は85.1%であり、授業改善が進みつつある。 ・1学期期末考査前1週間(6月)の1日当たり平均自宅学習時間は125分であり、昨年度同時期に比べて減少している。8月以降、就職・進学試験を控えた3年では、放課後に学習している生徒が多くなった。 ・倉敷商高、津山商高、尾道商高との授業実践交流(9月)を実施し、授業改善を図った。 ・5月時点で部活動加入率は100%である。9月末時点で全国大会に8部(9大会、全部活動の4割)が出場しており、出場生徒数は全校の約6分の1である。	B	・保健だより、PTA広報誌等で生活リズム確立について生徒・保護者への啓発を行う。 ・新体力テストの結果を活用し、保健体育の授業、0限体育等によって、体力・健康向上を図る。 ・年間を通じて自宅学習調査を行い、調査結果を各教科の授業改善、生徒面談等に活用する。 ・文科省科学研究指定事業(12月)、授業改革研修(12月)、中学校出前授業等によって、生徒の学ぶ意欲を高める授業力向上を図る。 ・部活動が人格形成の場であることに自覚させ、技術力3割・人間力7割の指導を継続する。		
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶、時間厳守、正しい制服の着こなし、丁寧な言葉遣いができる。	・鳥商生としての自覚と誇りに基づく挨拶や正しい着こなしは概ね実践されているが、習得した知識や技術を活かそうとする実践力・応用力が十分に身につけていない生徒がいる。 ・基本的なコミュニケーション能力を徐々に身につけてきているが、社会生活、職業生活を通用する自己表現力や知識・教養を積極的に吸収しようとする姿勢に欠けている生徒がいる。 ・昨年度の図書貸出冊数は1,921冊、1人あたり3.1冊。(図書館改修のため実質3ヶ月間が閉館であった。) ・昨年度の全商英語検定2・3級取得者は、前年度に比べ24名増加したが(3学年合計で昨年度619→今年度643)、1級取得者は大きく減少した(一昨年度6→昨年度1)。	・鳥商で学ぶ生徒としての自覚と誇りを持ち、挨拶やマナー、正しい制服の着こなしが身につけている。 ・校内、校外を問わず、高い規範意識、人権意識に基づいた適切な言動を取ることができる。 ・鳥商教育の集大成である第22回鳥商デパートにおいて、鳥商生活全般で習得したビジネス実践力が十分に発揮されている。 ・多くの生徒が知識・教養を拡げること意義を見出し、図書館の年間貸出冊数が1人当たり6冊以上となっている。 ・生徒がグローバル社会の肌で感じることでできるように、留学生、外国人訪問団を積極的に受け入れている。 ・全商英語検定の取得状況が、昨年度より向上している。	・学校評議員会、学校関係者評価委員会等による外部有識者からの意見、提言を、学校経営に積極的に反映する。 ・「デパートゆにっと」(長野市)の参加等によって、第22回鳥商デパートを前回よりさらに充実させる。 ・鳥商手帳を日常的に活用するように指導し、自己管理能力を高める。 ・図書館改修(ハード面)を機に、より魅力ある図書館づくり、読書教育(ソフト面)の充実を図る。 ・全商英検前の検定補習をより充実させる。 ・1年英語を習熟度別授業展開とするとともに、ESS部の活動を活性化し、英語活用力を高める。	・学校評議員会、学校関係者評価委員会(6月)において、鳥商教育の目指す明確なビジョン、就職後のきわめて低い離職率、コミュニケーション能力を高める自己表現学習プログラム等が高く評価された。 ・本校教育の集大成に相応しい鳥商デパートにおいて、昨年度までの3年全員参加(1・2年生ボランティア参加)の方針を改め、2・3年生全員参加とし、現在、着々と準備を進めている。 ・昨年度後期の図書館改修を受け、図書館が利用しやすくなった。9月末時点で1人当たりの貸出冊数、授業利用時間数は、それぞれ3.6冊(昨年度3.1冊)、88時間(昨年度38時間)である。 ・9月実施の全商英検の合格率は1級9%、2級15.6%、3級84.0%であり、上級取得率が低下している。	B	・鳥商教育の集大成に相応しい鳥商デパートの開催に向け、生徒、職員、保護者、他校(小中高)と連携し、売上1200万円、乗客1万人を目指し、全力で取り組む。 ・知識構成型ジソー法・ケーススタディを活用した文部科学省指定研究(12月)、授業改革校内研修会(12月)によって、教員の授業力向上、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・1年英語の習熟度別授業展開により英語活用力を向上させ、進路実現につながる資格取得を目指す。全商スピーチコンテスト全国大会の出場を目指す。 ・ソフト面・ハード面ともに魅力ある図書館づくりを図り、より多くの生徒が図書館を利用するように、継続した読書指導を行う。		
	【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。	・鳥商生としての自覚と誇りに基づく挨拶や正しい着こなしは概ね実践されているが、習得した知識や技術を活かそうとする実践力・応用力が十分に身につけていない生徒がいる。 ・基本的なコミュニケーション能力を徐々に身につけてきているが、社会生活、職業生活を通用する自己表現力や知識・教養を積極的に吸収しようとする姿勢に欠けている生徒がいる。 ・昨年度の図書貸出冊数は1,921冊、1人あたり3.1冊。(図書館改修のため実質3ヶ月間が閉館であった。) ・昨年度の全商英語検定2・3級取得者は、前年度に比べ24名増加したが(3学年合計で昨年度619→今年度643)、1級取得者は大きく減少した(一昨年度6→昨年度1)。	・鳥商で学ぶ生徒としての自覚と誇りを持ち、挨拶やマナー、正しい制服の着こなしが身につけている。 ・校内、校外を問わず、高い規範意識、人権意識に基づいた適切な言動を取ることができる。 ・鳥商教育の集大成である第22回鳥商デパートにおいて、鳥商生活全般で習得したビジネス実践力が十分に発揮されている。 ・多くの生徒が知識・教養を拡げること意義を見出し、図書館の年間貸出冊数が1人当たり6冊以上となっている。 ・生徒がグローバル社会の肌で感じることでできるように、留学生、外国人訪問団を積極的に受け入れている。 ・全商英語検定の取得状況が、昨年度より向上している。	・学校評議員会、学校関係者評価委員会等による外部有識者からの意見、提言を、学校経営に積極的に反映する。 ・「デパートゆにっと」(長野市)の参加等によって、第22回鳥商デパートを前回よりさらに充実させる。 ・鳥商手帳を日常的に活用するように指導し、自己管理能力を高める。 ・図書館改修(ハード面)を機に、より魅力ある図書館づくり、読書教育(ソフト面)の充実を図る。 ・全商英検前の検定補習をより充実させる。 ・1年英語を習熟度別授業展開とするとともに、ESS部の活動を活性化し、英語活用力を高める。	・学校評議員会、学校関係者評価委員会(6月)において、鳥商教育の目指す明確なビジョン、就職後のきわめて低い離職率、コミュニケーション能力を高める自己表現学習プログラム等が高く評価された。 ・本校教育の集大成に相応しい鳥商デパートにおいて、昨年度までの3年全員参加(1・2年生ボランティア参加)の方針を改め、2・3年生全員参加とし、現在、着々と準備を進めている。 ・昨年度後期の図書館改修を受け、図書館が利用しやすくなった。9月末時点で1人当たりの貸出冊数、授業利用時間数は、それぞれ3.6冊(昨年度3.1冊)、88時間(昨年度38時間)である。 ・9月実施の全商英検の合格率は1級9%、2級15.6%、3級84.0%であり、上級取得率が低下している。	B	・鳥商教育の集大成に相応しい鳥商デパートの開催に向け、生徒、職員、保護者、他校(小中高)と連携し、売上1200万円、乗客1万人を目指し、全力で取り組む。 ・知識構成型ジソー法・ケーススタディを活用した文部科学省指定研究(12月)、授業改革校内研修会(12月)によって、教員の授業力向上、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・1年英語の習熟度別授業展開により英語活用力を向上させ、進路実現につながる資格取得を目指す。全商スピーチコンテスト全国大会の出場を目指す。 ・ソフト面・ハード面ともに魅力ある図書館づくりを図り、より多くの生徒が図書館を利用するように、継続した読書指導を行う。		
【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・異なった意見に対する寛容の精神と、自分で考え伝える力を兼ね備えた自己表現力が身につけている。 ・グローバル感覚、英語活用力が向上している。	・鳥商生としての自覚と誇りに基づく挨拶や正しい着こなしは概ね実践されているが、習得した知識や技術を活かそうとする実践力・応用力が十分に身につけていない生徒がいる。 ・基本的なコミュニケーション能力を徐々に身につけてきているが、社会生活、職業生活を通用する自己表現力や知識・教養を積極的に吸収しようとする姿勢に欠けている生徒がいる。 ・昨年度の図書貸出冊数は1,921冊、1人あたり3.1冊。(図書館改修のため実質3ヶ月間が閉館であった。) ・昨年度の全商英語検定2・3級取得者は、前年度に比べ24名増加したが(3学年合計で昨年度619→今年度643)、1級取得者は大きく減少した(一昨年度6→昨年度1)。	・鳥商で学ぶ生徒としての自覚と誇りを持ち、挨拶やマナー、正しい制服の着こなしが身につけている。 ・校内、校外を問わず、高い規範意識、人権意識に基づいた適切な言動を取ることができる。 ・鳥商教育の集大成である第22回鳥商デパートにおいて、鳥商生活全般で習得したビジネス実践力が十分に発揮されている。 ・多くの生徒が知識・教養を拡げること意義を見出し、図書館の年間貸出冊数が1人当たり6冊以上となっている。 ・生徒がグローバル社会の肌で感じることでできるように、留学生、外国人訪問団を積極的に受け入れている。 ・全商英語検定の取得状況が、昨年度より向上している。	・学校評議員会、学校関係者評価委員会等による外部有識者からの意見、提言を、学校経営に積極的に反映する。 ・「デパートゆにっと」(長野市)の参加等によって、第22回鳥商デパートを前回よりさらに充実させる。 ・鳥商手帳を日常的に活用するように指導し、自己管理能力を高める。 ・図書館改修(ハード面)を機に、より魅力ある図書館づくり、読書教育(ソフト面)の充実を図る。 ・全商英検前の検定補習をより充実させる。 ・1年英語を習熟度別授業展開とするとともに、ESS部の活動を活性化し、英語活用力を高める。	・学校評議員会、学校関係者評価委員会(6月)において、鳥商教育の目指す明確なビジョン、就職後のきわめて低い離職率、コミュニケーション能力を高める自己表現学習プログラム等が高く評価された。 ・本校教育の集大成に相応しい鳥商デパートにおいて、昨年度までの3年全員参加(1・2年生ボランティア参加)の方針を改め、2・3年生全員参加とし、現在、着々と準備を進めている。 ・昨年度後期の図書館改修を受け、図書館が利用しやすくなった。9月末時点で1人当たりの貸出冊数、授業利用時間数は、それぞれ3.6冊(昨年度3.1冊)、88時間(昨年度38時間)である。 ・9月実施の全商英検の合格率は1級9%、2級15.6%、3級84.0%であり、上級取得率が低下している。	B	・鳥商教育の集大成に相応しい鳥商デパートの開催に向け、生徒、職員、保護者、他校(小中高)と連携し、売上1200万円、乗客1万人を目指し、全力で取り組む。 ・知識構成型ジソー法・ケーススタディを活用した文部科学省指定研究(12月)、授業改革校内研修会(12月)によって、教員の授業力向上、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・1年英語の習熟度別授業展開により英語活用力を向上させ、進路実現につながる資格取得を目指す。全商スピーチコンテスト全国大会の出場を目指す。 ・ソフト面・ハード面ともに魅力ある図書館づくりを図り、より多くの生徒が図書館を利用するように、継続した読書指導を行う。			